

令和4年度

全国学力・学習状況調査

－ 結果の概要 －

令和4年9月
石川県教育委員会

目 次

I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査の対象	1
3	調査の内容	1
	(1) 教科に関する調査	
	(2) 質問紙調査	
4	調査の方式	1
5	調査日	1
6	調査を実施した本県公立学校数・児童生徒数	1
	[本書における留意事項]	2

II 調査の結果

1	教科に関する調査の結果	3
	(1) 各教科の状況	4
	《小学校第6学年 国語》	
	《小学校第6学年 算数》	
	《小学校第6学年 理科》	
	《中学校第3学年 国語》	
	《中学校第3学年 数学》	
	《中学校第3学年 理科》	
	(2) 学校の分布状況	28
	(3) 各教育事務所の状況	30
	(4) 平均正答率の全国との差の変動	34
2	質問紙調査の結果	36
	(1) 児童生徒質問紙調査	36
	(2) 学校質問紙調査	43

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語 算数・数学 理科	① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 ※ 調査問題では、上記①と②を一体的に問う
-------------------	--

(2) 質問紙調査

児童生徒質問紙	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校質問紙	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査日 令和4年4月19日(火)

6 調査を実施した本県公立学校数・児童生徒数(義務教育学校、特別支援学校を含む)

区 分	小学校第6学年	中学校第3学年
学 校 数	203校	85校
児 童 生 徒 数	8,593人	8,979人

[本書における留意事項]

1 語句について

語 句	説 明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	平均正答数を百分率で表示
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値

2 到達状況の表記について

○平均正答率の比較については、国や県の平均正答率との差が、±5%以上（以下）は上回る（下回る）、±2%以上（以下）～±5%未満はやや上回る（やや下回る）、±2%未満は同程度と表記した。

○国が公表した過去の調査結果を参考にして、正答率の状況により、児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正 答 率	「到達状況」を示す記号、用語
90%以上の場合	◎：良好である
80%以上～90%未満の場合	○：概ね良好である
70%以上～80%未満の場合	◇：基準に到達している
60%以上～70%未満の場合	▽：十分とはいえない
60%未満の場合	▼：不十分である

3 調査結果の解釈等について

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

本調査の結果においては、教科ごとの平均正答率等の数値を示しているが、これらと分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価する必要がある。

また、本調査結果の活用については、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

4 調査結果の算出方法について

平成29年度から文部科学省は、全国の平均正答率を小数第一位までの小数値、県の平均正答率を整数値で公表している。

本資料における調査結果については、文部科学省から公表された数値を使用している。ただし、Ⅱ1(3)「各教育事務所の状況」及びⅡ1(4)「平均正答率の全国との差の変動」の資料作成に当たっては、文部科学省から公表された全国の平均正答率を小数第一位で四捨五入した整数値とし、本県の整数値の平均正答率と比較する本県独自の算出を行っている。そのため、精緻な数値での状況と異なる場合もある。

Ⅱ 調査の結果

1 教科に関する調査の結果

本県の平均正答率は、これまでの調査と同様に、小中学校の国語、算数・数学、理科ともに全国より高い。

学年	項目	県・国	国語	算数・数学	理科
小学校 第6学年	問数		14	16	17
	平均正答率 (%)	本県	70	69	70
		全国	65.6	63.2	63.3
中学校 第3学年	問数		14	14	21
	平均正答率 (%)	本県	73	58	55
		全国	69.0	51.4	49.3

※ 平成29年度から文部科学省は、県の平均正答率を整数値で公表している。

※ 令和元年度から、従来のA問題(知識)とB問題(活用)という区分を見直した知識・活用を一体的に問う調査問題となる。

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の学校教育への影響等を考慮し、調査を実施していない。

《参考》

[令和3年度の結果]

学年	県・国	国語	算数
小学校 第6学年	本県	71	74
	全国	64.7	70.2

学年	県・国	国語	数学
中学校 第3学年	本県	69	63
	全国	64.6	57.2

[令和元年度の結果]

学年	県・国	国語	算数
小学校 第6学年	本県	72	72
	全国	63.8	66.6

学年	県・国	国語	数学	英語
中学校 第3学年	本県	77	65	58
	全国	72.8	59.8	56.0

[平成30年度の結果]

学年	県・国	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
小学校 第6学年	本県	76	61	68	59	66
	全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

学年	県・国	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
中学校 第3学年	本県	79	65	71	52	71
	全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

(1)各教科の状況

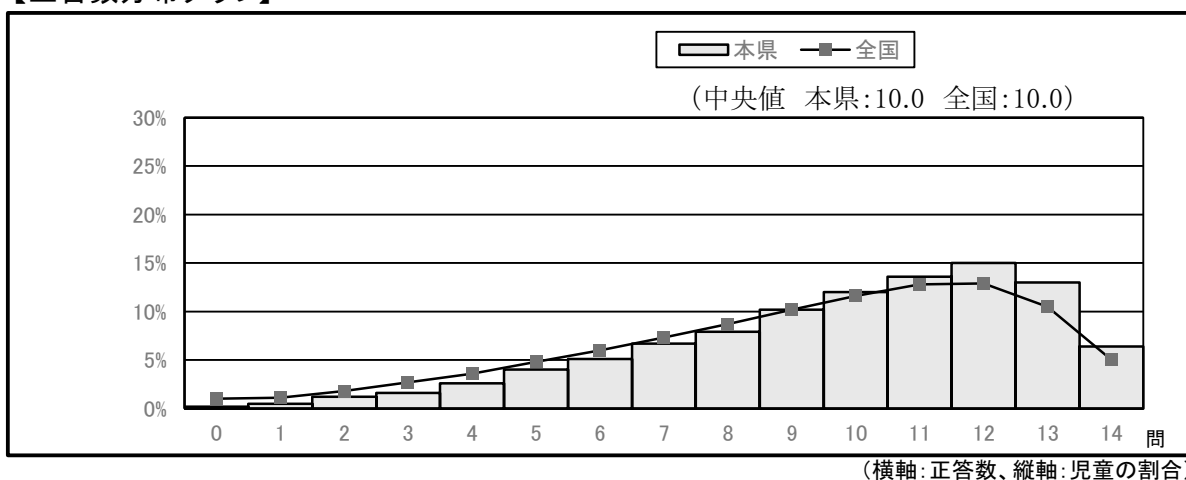
《小学校第6学年 国語》

国語

- ☆ 平均正答率は全国平均をやや上回り、基準に到達している。
- ☆ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことはできている。
- ☆ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。

	平均正答数	平均正答率	標準偏差
本県	9.8 / 14 問	70 %	3.0
全国	9.2 / 14 問	65.6 %	3.3

【正答数分布グラフ】



【正答率の高い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1 3四	(一)から(二)に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	89.4	77.9
2 1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	87.7	85.5
3 1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	85.4	84.7

【正答率の低い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1 3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	42.5	37.7
2 1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く	54.7	47.7
3 2三	【山村さんの文章】の <input type="text"/> B <input type="text"/> に入る内容として適切なものを選択する	59.9	59.2

【本県の平均正答率が全国の平均正答率より低い設問】

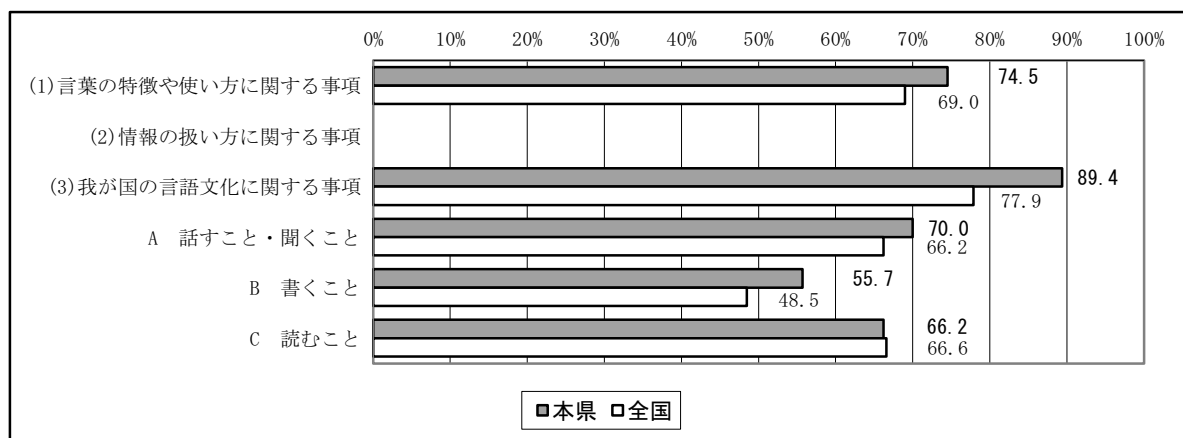
国語

設問番号	設問の概要	本県	全国	差
1	2一(1)「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	64.6	68.4	-3.8
2	2一(2)「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	69.3	70.6	-1.3

【到達状況の傾向】

◎:良好である ○:概ね良好である ◇:基準に到達している ▽:十分とはいえない ▼:不十分である

【領域等別の平均正答率】



【知識及び技能】

【(1)言葉の特徴や使い方に関する事項】

- : 話し言葉と書き言葉との違いを理解すること〔1一〕
- ◇ : 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えること〔1二〕

【(3)我が国の言語文化に関する事項】

- : 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと〔3四〕

【思考力・判断力・表現力等】

【A 話すこと・聞くこと】

- : 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること〔1三〕
- ▼ : 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめること〔1四〕

【B 書くこと】

- ▽ : 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること〔3一〕
- ▼ : 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること〔3二〕

【C 読むこと】

- ◇ : 人物像や物語の全体像を具体的に想像すること〔2二〕
- ▽ : 物語全体を通して、複数の叙述を基に登場人物の行動や気持ちを捉えたり、複数の描写を基に登場人物の相互関係を捉えたりすること〔2一(1)(2)〕
- ▼ : 表現の効果を考えること〔2三〕

[]内:設問番号

【各設問の正答率等】

国語

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

設問番号	設問の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			本県		全国	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
		(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと							
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	○						○			87.7	0.2	85.5	0.9
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	○						○			71.7	0.2	68.8	1.0
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する					○			○		85.4	0.2	84.7	1.0
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く					○			○		54.7	2.3	47.7	3.0
2一(1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する								○	○	64.6	0.1	68.4	1.0
2一(2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する								○	○	69.3	0.3	70.6	1.6
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="text"/> Aに入る内容を書く								○	○	71.2	8.1	68.3	12.2
2三	【山村さんの文章】の <input type="text"/> Bに入る内容として適切なものを選択する								○	○	59.9	0.8	59.2	3.2

【各設問の正答率等】

国語

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

設問番号	設問の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			本県		全国	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
		(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと							
3一	【文章2】の の部分を、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する										68.9	0.5	59.2	2.5
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く										42.5	9.1	37.7	14.5
3三ア	【文章2】の中の——部アを、漢字を使って書き直す(ろくが)	○									72.1	2.9	65.2	8.1
3三イ	【文章2】の中の——部イを、漢字を使って書き直す(はんせい)	○									65.1	3.8	58.7	10.2
3三ウ	【文章2】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す(したしむ)	○									76.0	6.4	67.1	14.7
3四	(一) から (二) に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する			○							89.4	1.1	77.9	5.9

《小学校第6学年 算数》

算数

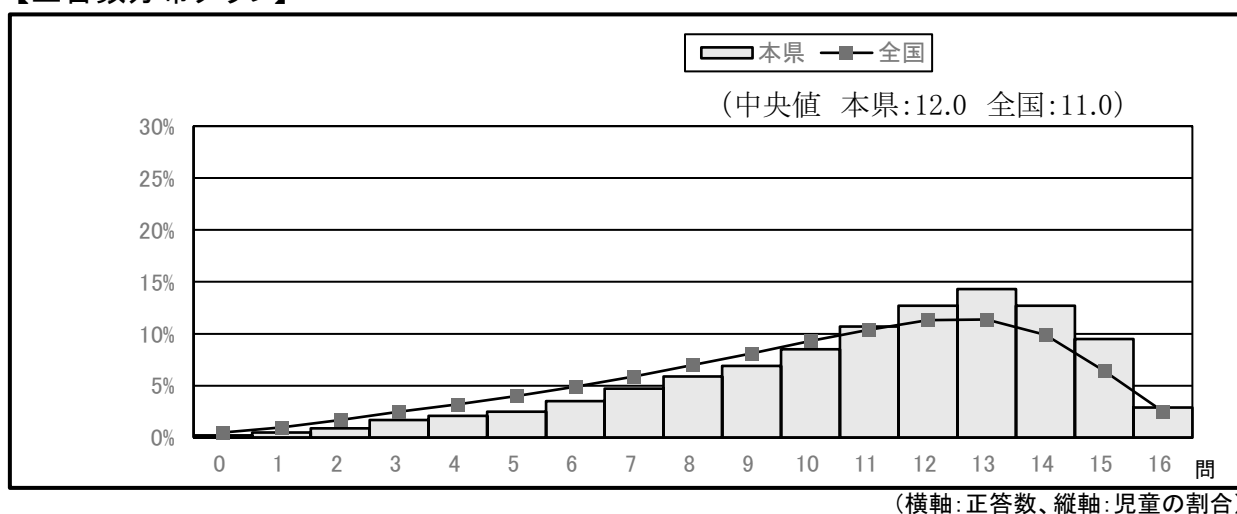
☆ 平均正答率は全国平均を上回るが、十分とはいえない。

☆ 場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述することはできている。

☆ 数量が変わっても割合は変わらないことを理解することや、概数を用いて目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題がある。

	平均正答数	平均正答率	標準偏差
本県	11.0 / 16 問	69 %	3.3
全国	10.1 / 16 問	63.2 %	3.6

【正答数分布グラフ】



【正答率の高い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1	1(1) 1050×4を計算する	93.2	92.4
2	4(2) 長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	87.8	83.2
3	1(3) カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	84.7	76.0

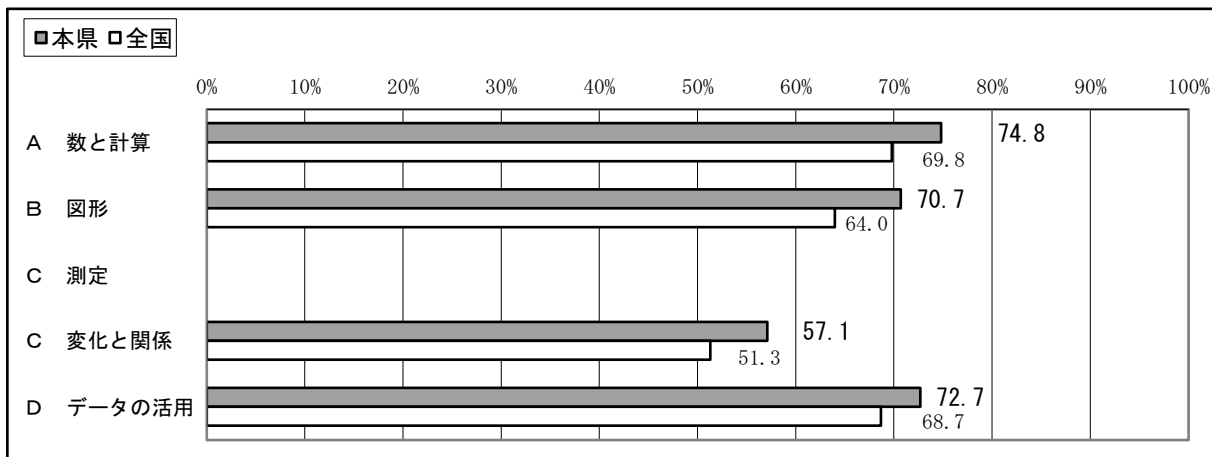
【正答率の低い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1	2(3) 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	24.0	21.4
2	1(4) 85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	40.9	34.8
3	2(4) 果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	54.9	48.0

【到達状況の傾向】

◎:良好である ○:概ね良好である ◇:基準に到達している ▽:十分とはいえない ▼:不十分である

【領域等別の平均正答率】



[A 数と計算]

- ◎ : 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすること〔1(1)〕
- ▼ : 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察すること〔1(4)〕

[B 図形]

- ▽ : 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断すること〔4(4)〕
- ▼ : 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述すること〔4(1)〕

[C 変化と関係]

- ▼ : 数量が変わっても割合は変わらないことを理解すること〔2(3)〕
- ▼ : 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述すること〔2(4)〕

[D データの活用]

- : 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目にあたる数を求めること〔3(1)〕
- ▽ : 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できること〔3(2)〕

[]内:設問番号

【各設問の正答率等】

算数

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			本県		全国	
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1(1)	1050×4を計算する	○					○			93.2	0.0	92.4	0.3
1(2)	14と21の最小公倍数を求める	○					○			75.4	1.7	72.2	3.0
1(3)	カップケーキ7個分の値段を、 1470÷3で求めることができる わけを書く	○						○		84.7	2.5	76.0	5.2
1(4)	85×21の答えが1470より必ず大 きくなることを判断するための 数の処理の仕方を選ぶ	○						○		40.9	0.2	34.8	0.9
2(1)	果汁が25%含まれている飲み物 の量を基にしたときの、果汁の 量の割合を分数で表す				○		○			78.9	2.0	71.1	3.9
2(2)	果汁が40%含まれている飲み物 の量が1000mLのときの、果汁の 量を書く				○		○			70.6	2.1	64.6	3.3
2(3)	果汁が含まれている飲み物の量 を半分にしたときの、果汁の割 合について正しいものを選ぶ				○		○			24.0	0.3	21.4	1.1
2(4)	果汁が30%含まれている飲み物 に果汁が180mL入っているとき の、飲み物の量の求め方と答え を書く				○			○		54.9	3.2	48.0	5.5
3(1)	表のしりとり欄に入る数を求 める式と答えを書く	○					○	○		80.4	1.2	75.3	2.1
3(2)	分類整理されたデータから、全 員の希望が一つは通るように、 遊びを選ぶ						○	○		67.7	0.6	63.9	1.6
3(3)	1年生と6年生が希望する遊び の割合を調べるためのグラフを 選び、そのグラフから割合が一 番大きい遊びを選ぶ						○	○		69.9	1.0	66.8	2.2

【各設問の正答率等】

算数

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			本県		全国	
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
3(4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	○								74.4	4.5	67.7	8.6
4(1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す		○							58.2	1.7	48.8	3.8
4(2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く		○					○		87.8	2.2	83.2	4.7
4(3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ		○					○		71.5	1.9	66.5	4.6
4(4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ		○					○		65.2	2.2	57.6	5.1

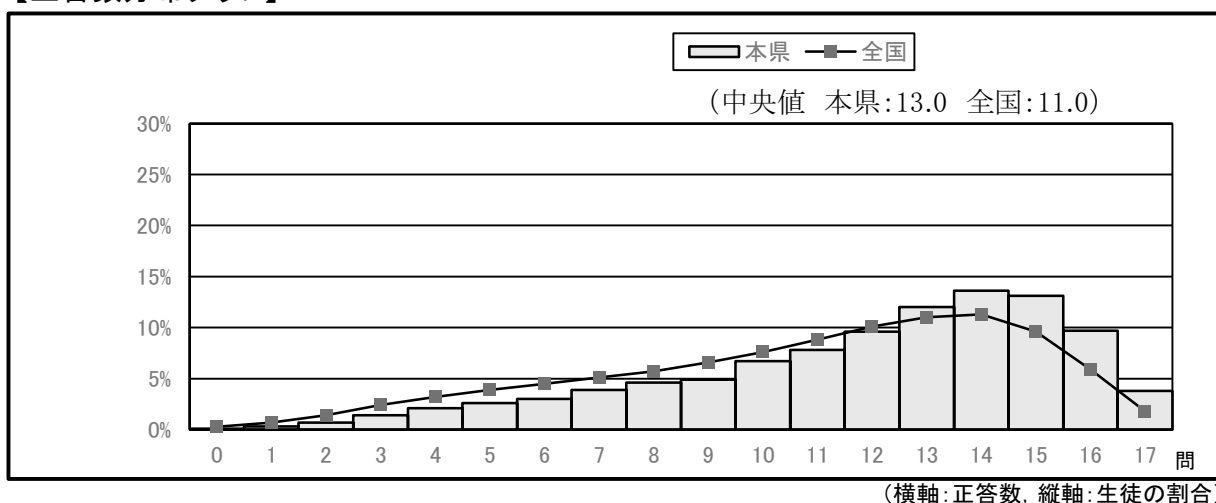
《小学校第6学年 理科》

理科

- ☆ 平均正答率は全国平均を上回り、基準に到達している。
- ☆ 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことはできている。
- ☆ 自然の事物・現象から得た情報や実験で得た結果を分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。

	平均正答数	平均正答率	標準偏差
本県	11.8 / 17 問	70 %	3.6
全国	10.8 / 17 問	63.3 %	3.8

【正答数分布グラフ】



【正答率の高い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1	1(1) 見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	94.7	92.9
2	4(1) 冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	85.9	82.3
3	1(4) 資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるかを選ぶ	82.5	76.1

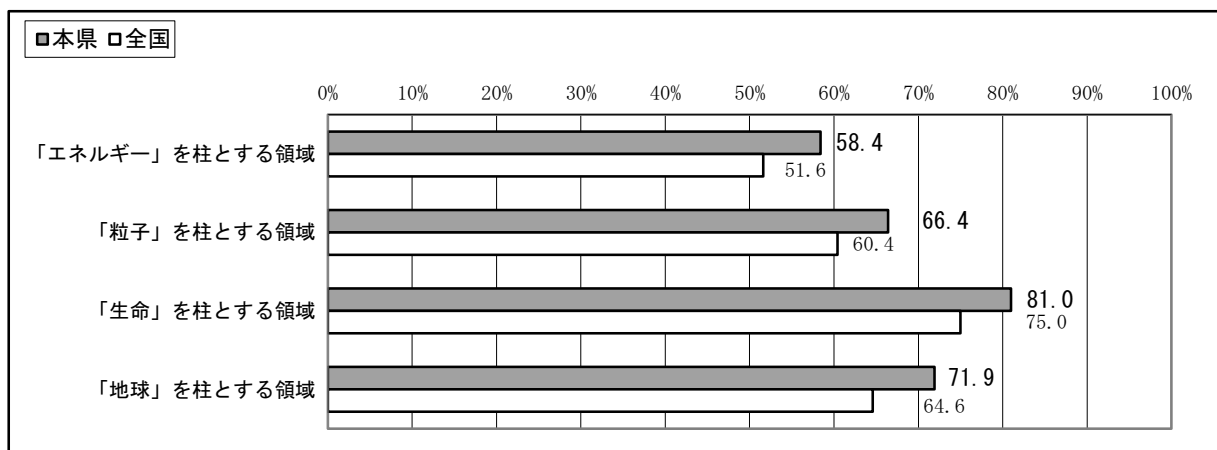
【正答率の低い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1	3(1) 光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	32.7	27.8
2	2(4) 凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	43.8	39.3
3	3(4) 問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	48.1	35.1

【到達状況の傾向】

◎:良好である ○:概ね良好である ◇:基準に到達している ▽:十分とはいえない ▼:不十分である

【領域等別の平均正答率】



【「エネルギー」を柱とする領域】

- ▼ : 日光は直進することを理解すること〔3(1)〕
- ▼ : 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述すること〔3(4)〕

【「粒子」を柱とする領域】

- ▽ : 自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えを持つこと〔2(3)〕
- ▼ : 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述すること〔2(4)〕

【「生命」を柱とする領域】

- ◎ : 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつこと〔1(1)〕
- : 提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつこと〔1(4)〕

【「地球」を柱とする領域】

- : 観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつこと〔4(1)〕
- ◇ : 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつこと〔4(2)〕

[]内:設問番号

【各設問の正答率等】

理科

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

設問番号	設問の概要	学習指導要領の区分・領域			評価の観点			本県		全国	
		A区分		B区分	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域							
1(1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ			○			○	94.7	0.1	92.9	0.2
1(2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く			○			○	76.6	2.9	67.5	5.0
1(3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ			○			○	80.0	0.1	73.1	0.3
1(4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ			○			○	82.5	0.2	76.1	0.7
1(5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ			○			○	71.2	0.7	65.5	1.4
2(1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く		○				○	75.0	5.0	67.8	9.8
2(2)	水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ		○				○	73.1	0.2	70.0	0.6
2(3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ		○				○	68.1	0.4	62.8	1.0
2(4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く		○				○	43.8	4.9	39.3	8.7

【各設問の正答率等】

理科

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

設問番号	設問の概要	学習指導要領の区分・領域			評価の観点			本県		全国	
		A区分		B区分	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域							
3(1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	○			○			32.7	0.2	27.8	0.6
3(2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	○			○			78.6	0.8	74.4	1.3
3(3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	○		○		○		74.0	2.7	68.9	5.1
3(4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	○				○		48.1	6.3	35.1	11.2
4(1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ			○		○		85.9	0.5	82.3	1.0
4(2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ			○		○		75.1	0.5	64.5	1.3
4(3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ			○		○		52.8	3.1	45.5	6.5
4(4)	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く		○	○	○			71.9	3.4	62.0	6.2

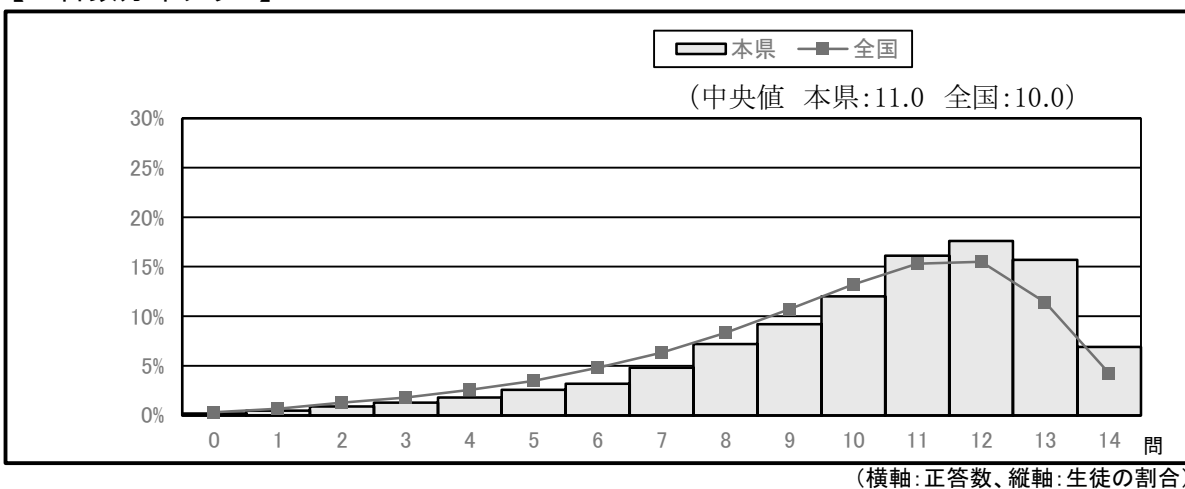
《中学校第3学年 国語》

国語

- ☆ 平均正答率は全国平均をやや上回り、基準に到達している。
- ☆ 漢字の行書の読みやすい書き方や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方について理解することはできている。
- ☆ 引用の仕方や出典の示し方について理解し、考えの根拠が明確になるように必要な情報を引用して書く活動の中で、適切に使うことに課題がある。

	平均正答数	平均正答率	標準偏差
本県	10.3 / 14 問	73 %	2.8
全国	9.7 / 14 問	69.0 %	2.9

【正答数分布グラフ】



【正答率の高い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1	4二 最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	92.5	90.1
2	2二① 漢字を書く(のぞく)	87.5	82.1
3	4三 書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	86.1	81.1

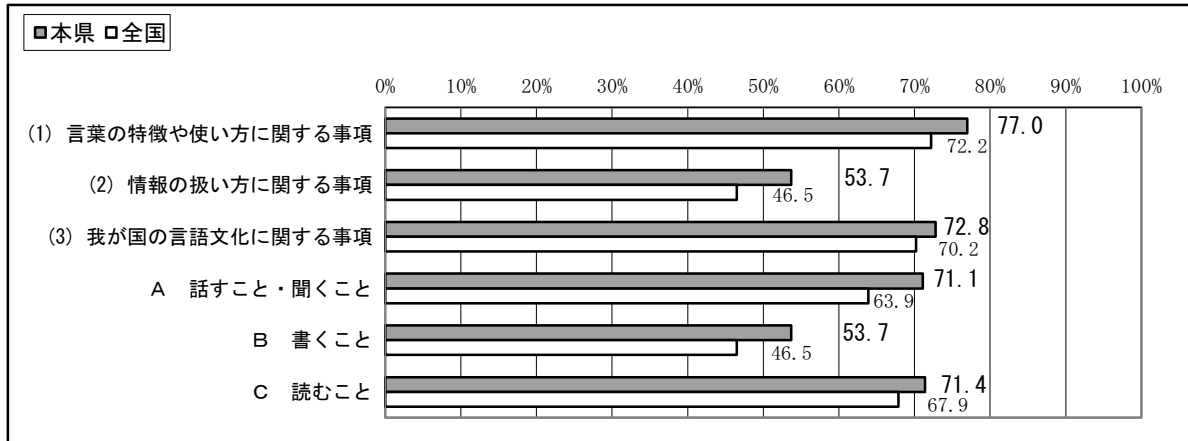
【正答率の低い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1	4一 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	39.7	39.4
2	2三 農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	53.7	46.5
3	3一 「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する。	59.5	52.5

【到達状況の傾向】

◎:良好である ○:概ね良好である ◇:基準に到達している ▼:十分とはいえない ▼:不十分である

【領域等別の平均正答率】



【知識及び技能】

【(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項】

- : 文脈に即して漢字を正しく書くこと[2二①②]
- : 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うこと[2一]
- ▼ : 表現の技法について理解すること[3一]

【(2) 情報の扱い方に関する事項】

- ▼ : 引用の仕方や出典の示し方について理解し、書く活動の中で使うこと[2三]

【(3) 我が国の言語文化に関する事項】

- ◎ : 漢字の行書の読みやすい書き方について理解すること[4二]
- ▼ : 行書の特徴を理解すること[4一]

【思考力、判断力、表現力等】

【A 話すこと・聞くこと】

- : 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫すること[1一]
- ◇ : 論理の展開などに注意して聞くこと[1二]

【B 書くこと】

- ▼ : 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと[2三]

【C 読むこと】

- ◇ : 場面と場面、場面と描写を結び付けて、内容を解釈すること[3四]
- ▽ : 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えること[3三]

[]内:設問番号

【各設問の正答率等】

国語

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

設問番号	設問の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			本県		全国				
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)			
		(1)	(2)	(3)	A	B	C										
		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと										
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す				○					○		80.9	2.8	74.7	3.8		
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する				○					○		70.2	0.1	65.1	0.1		
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	○			○				○	○		62.2	13.0	51.8	16.2		
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	○								○		85.3	0.2	82.3	0.2		
2二①	漢字を書く(のぞく)	○								○		87.5	4.9	82.1	8.8		
2二②	漢字を書く(よろこんで)	○								○		82.1	1.9	80.5	3.3		
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える		○						○	○		53.7	7.5	46.5	9.0		
3一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	○								○		59.5	0.5	52.5	0.7		

【各設問の正答率等】

国語

■ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

設問番号	設問の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			本県		全国	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率（％）	無解答率（％）	正答率（％）	無解答率（％）
		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと							
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	○						○			85.2	0.3	84.0	0.3
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える							○	○		66.0	0.9	62.0	1.0
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く							○	○		76.8	11.9	73.8	13.3
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する			○				○			39.7	0.8	39.4	0.9
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する			○				○			92.5	0.9	90.1	1.0
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する			○				○			86.1	0.9	81.1	1.1

《中学校第3学年 数学》

数学

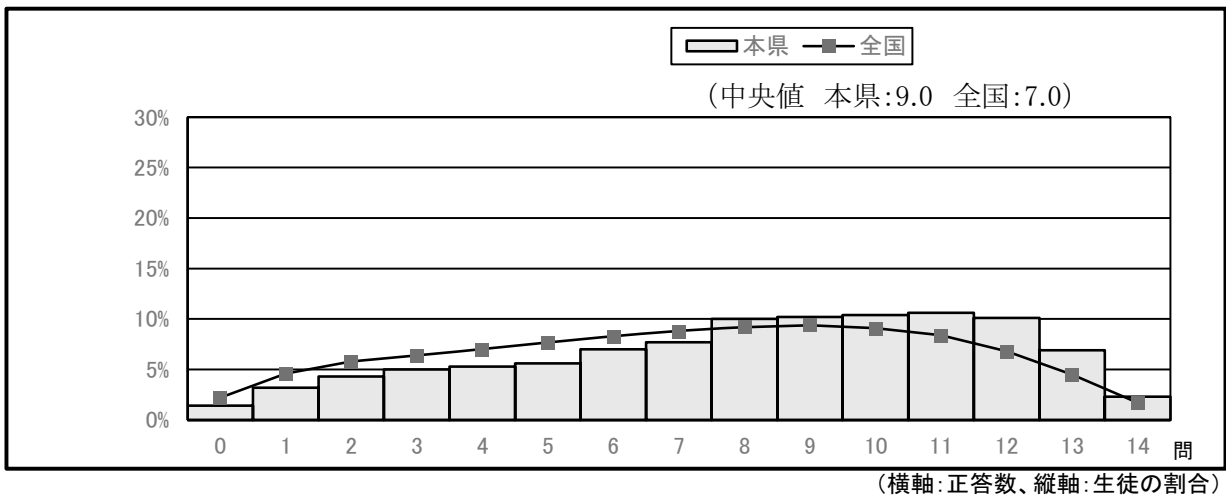
☆ 平均正答率は全国平均を上回るが、不十分である。

☆ 統計的確率の意味理解や、簡単な連立方程式を解くことはできている。

☆ 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することや、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし説明することに課題がある。

	平均正答数	平均正答率	標準偏差
本県	8.1 / 14 問	58 %	3.5
全国	7.2 / 14 問	51.4 %	3.6

【正答数分布グラフ】



【正答率の高い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1 5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	85.9	83.3
2 2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x+y=1 \\ y=x+4 \end{cases}$ を解く	78.6	74.5
3 6(1)	同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	77.0	73.8

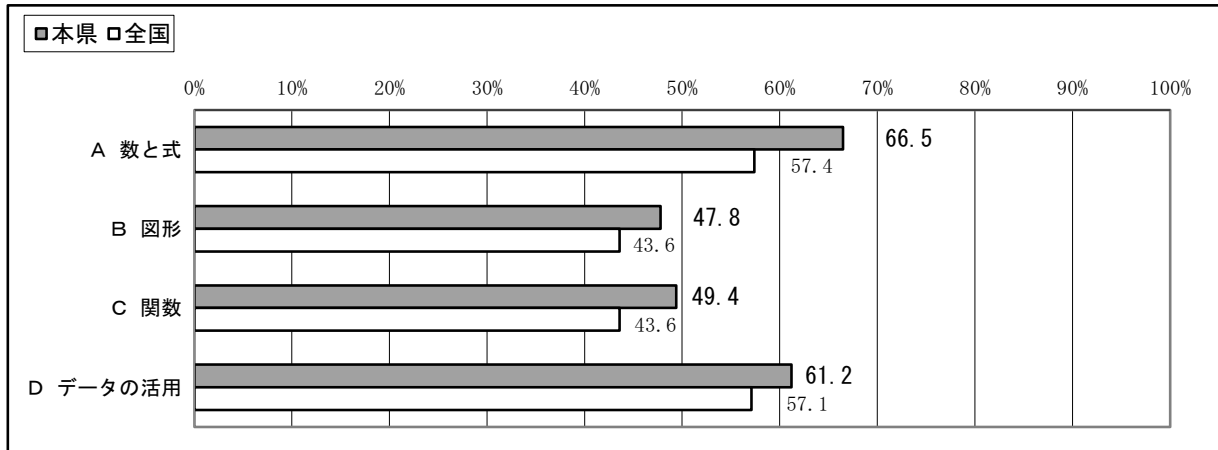
【正答率の低い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1 9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	16.2	12.5
2 4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	41.9	37.9
3 6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	46.9	37.6

【到達状況の傾向】

◎:良好である ○:概ね良好である ◇:基準に到達している ▼:十分とはいえない ▼:不十分である

【領域等別の平均正答率】



【A 数と式】

- ◇ : 簡単な連立二元一次方程式を解くこと〔2〕
- ◇ : 問題場面における考察の対象を明確に捉えること〔6(1)〕
- ▼ : 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること〔6(3)〕

【B 図形】

- ▼ : 反例の意味を理解すること〔3〕
- ▼ : 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること〔9(2)〕

【C 関数】

- ▼ : 一次関数の変化の割合の意味を理解すること〔4〕
- ▼ : 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること〔8(2)〕

【D データの活用】

- : 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解すること〔5〕
- ▼ : データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること〔7(1)〕

[]内:設問番号

【各設問の正答率等】

数学

□ : 正答率が全国より高い

□ : 正答率が全国より低い

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			本県		全国	
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1	42を素因数分解する	○				○			71.8	5.7	52.2	11.5
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x+y=1 \\ y=x+4 \end{cases}$ を解く	○				○			78.6	5.0	74.5	6.1
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ		○			○			50.3	0.3	44.9	0.4
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ			○		○			41.9	0.3	37.9	0.4
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ				○	○			85.9	0.2	83.3	0.3
6(1)	同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	○				○			77.0	4.4	73.8	6.0
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	○					○		58.5	15.1	48.7	20.0
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	○					○		46.9	20.2	37.6	26.2
7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する				○		○		48.6	1.2	44.0	1.4
7(2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ				○	○			48.9	0.6	44.1	0.7

【各設問の正答率等】

数学

□: 正答率が全国より高い

□: 正答率が全国より低い

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			本県		全国	
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
8(1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く			○		○			58.5	5.3	54.6	7.2
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する			○			○		47.8	17.8	38.4	24.4
9(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く		○			○			76.8	7.2	73.2	7.5
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する		○				○		16.2	32.6	12.5	38.5

《中学校第3学年 理科》

理科

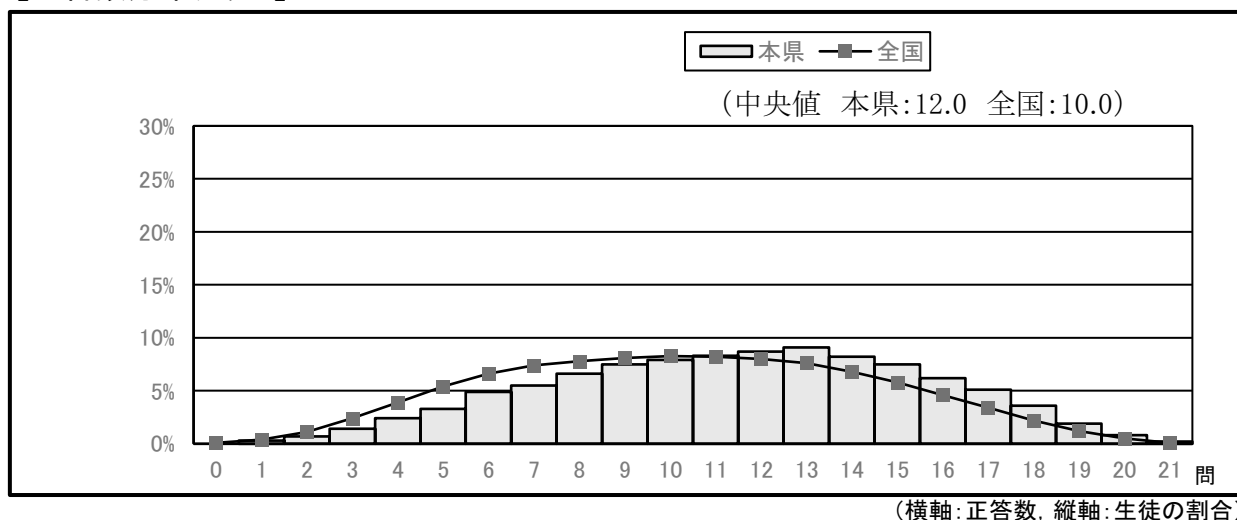
☆ 平均正答率は全国平均を上回るが、不十分である。

☆ モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画することはできている。

☆ 観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することに課題がある。

	平均正答数	平均正答率	標準偏差
本県	11.5 / 21 問	55 %	4.1
全国	10.4 / 21 問	49.3 %	4.1

【正答数分布グラフ】



【正答率の高い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1	3(1) 分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	87.0	80.1
2	1(2) タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	84.1	78.5
3	4(1) ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	79.1	74.5

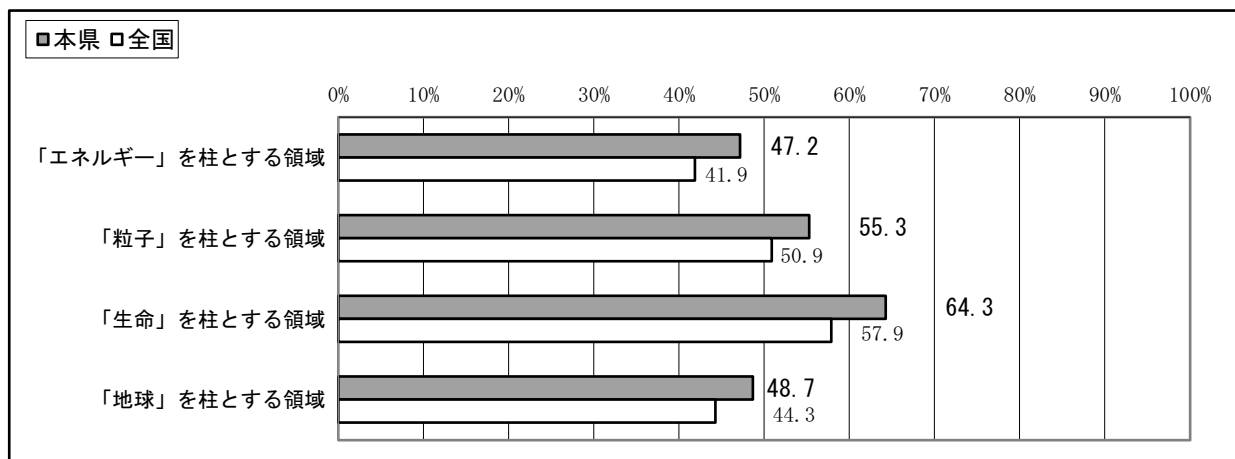
【正答率の低い設問】

設問番号	設問の概要	本県	全国
1	5(1) おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	18.7	15.3
2	3(3) 水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	25.9	24.8
3	2(3) 上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	33.2	28.5

【到達状況の傾向】

◎:良好である ○:概ね良好である ◇:基準に到達している ▽:十分とはいえない ▼:不十分である

【領域等別の平均正答率】



【「エネルギー」を柱とする領域】

- : モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画すること〔1(2)〕
- ▼ : 日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用すること〔1(1)〕
- ▼ : 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明すること〔5(1)〕

【「粒子」を柱とする領域】

- : 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すこと〔3(1)〕
- ▼ : 液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用すること〔7(1)〕

【「生命」を柱とする領域】

- ◇ : 節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈すること〔4(1)〕
- ▽ : 複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈すること〔4(2)〕

【「地球」を柱とする領域】

- ▽ : 過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善すること〔6(2)〕
- ▼ : 飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善すること〔2(3)〕

[]内:設問番号

【各設問の正答率等】

理科

■: 正答率が全国より高い

□: 正答率が全国より低い

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			本県		全国	
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1(1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	○				○			48.7	0.1	44.2	0.1
1(2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	○					○		84.1	0.1	78.5	0.1
2(1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する				○	○			58.2	0.1	54.2	0.2
2(2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する				○		○		41.5	0.1	40.8	0.3
2(3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する				○		○		33.2	0.2	28.5	0.3
3(1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す		○			○			87.0	0.1	80.1	0.1
3(2)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する		○				○		67.3	0.2	60.2	0.3
3(3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	○	○				○		25.9	2.5	24.8	4.3
4(1)	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する			○			○		79.1	3.8	74.5	5.5
4(2)	脊椎動物には骨格のつくりに通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する			○			○		68.8	0.2	65.6	0.2

【各設問の正答率等】

理科

: 正答率が全国より高い

: 正答率が全国より低い

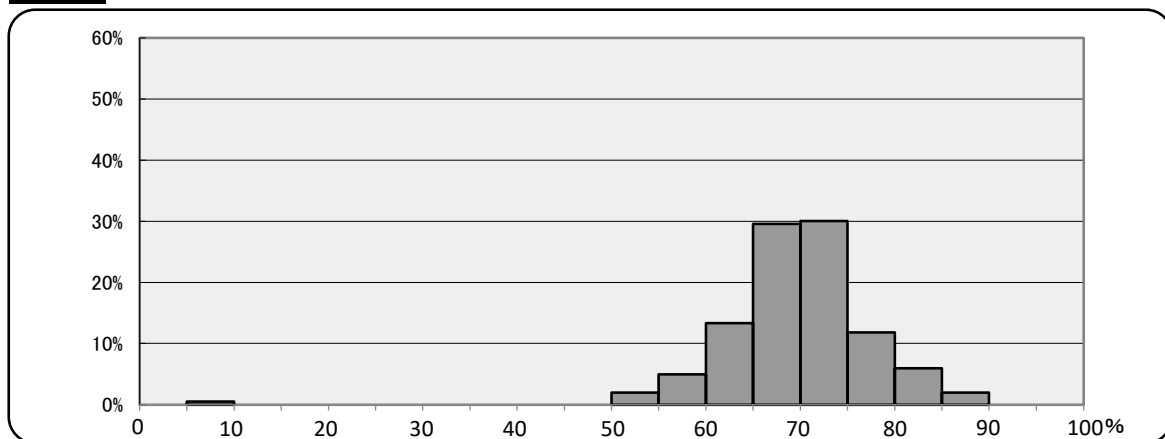
設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			本県		全国	
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
5(1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	○				○			18.7	0.1	15.3	0.2
5(2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	○				○			52.1	0.2	45.0	0.4
5(3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	○					○		53.9	20.8	43.3	29.4
6(1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する				○	○			54.8	0.2	48.0	0.3
6(2)	陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する				○		○		64.3	0.4	60.3	0.6
6(3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する				○		○		40.3	0.5	34.2	0.7
7(1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する		○			○			38.5	0.3	35.9	0.4
7(2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する		○				○		57.6	0.8	53.4	1.0
8(1)	アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する			○			○		64.9	6.5	55.2	11.6
8(2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する			○			○		62.7	9.8	55.1	14.9
8(3)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する			○			○		46.0	1.1	39.2	1.4

(2) 学校の分布状況

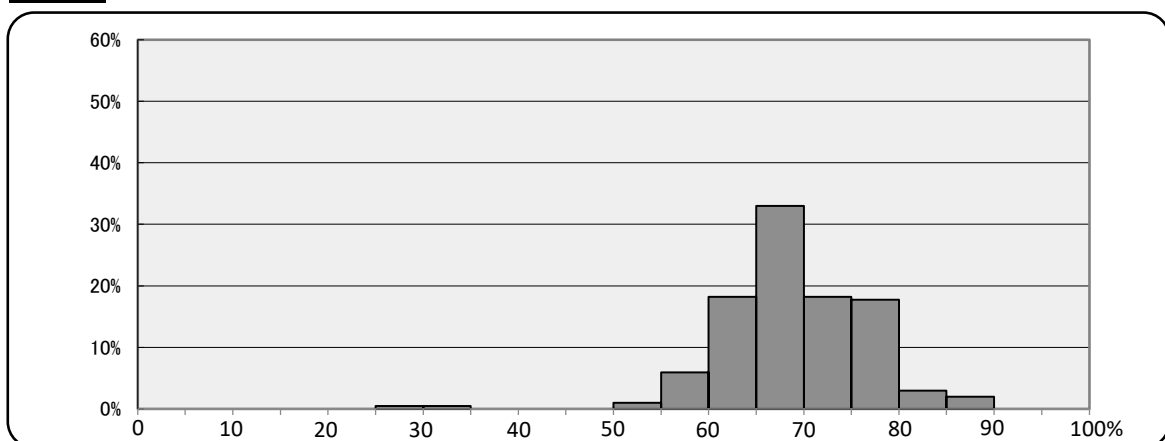
《公立小学校第6学年》

学校数	203 校
-----	-------

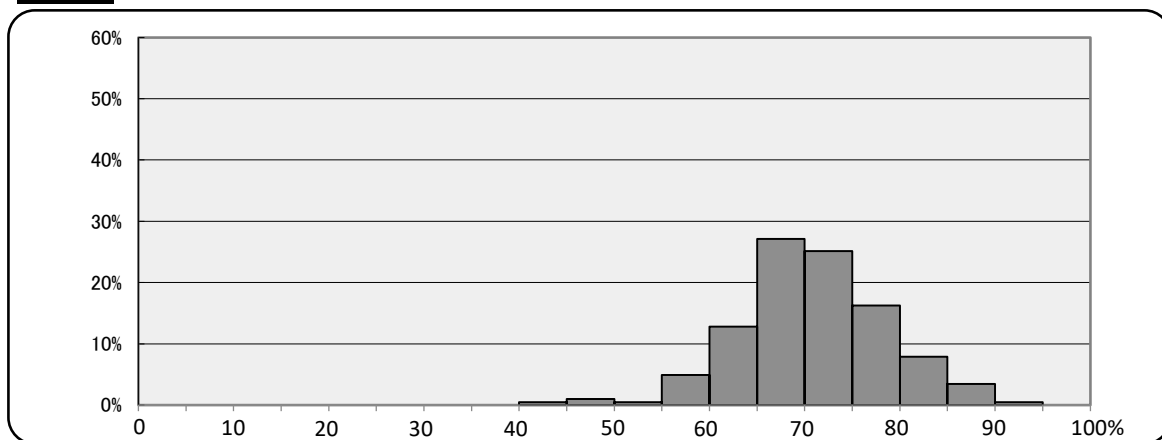
国語



算数



理科

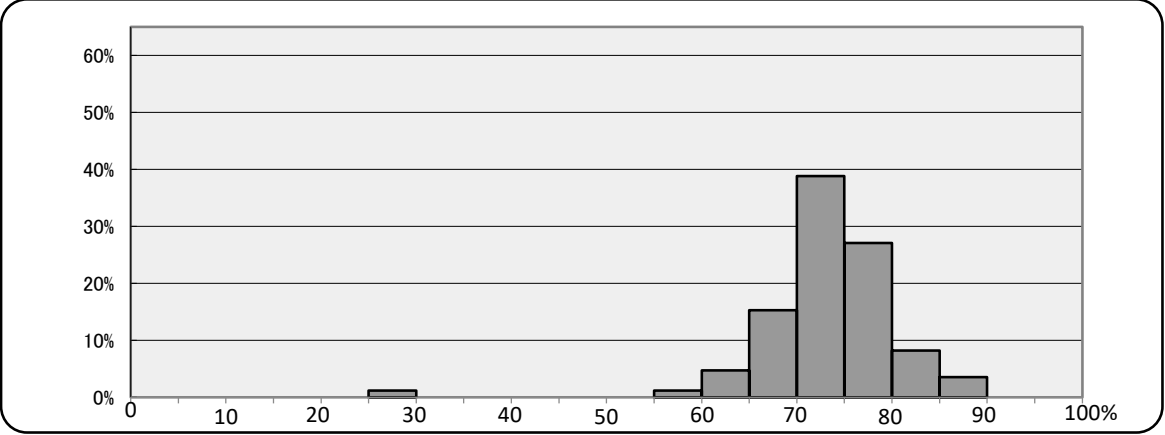


(横軸:学校の平均正答率 縦軸:学校数の割合)

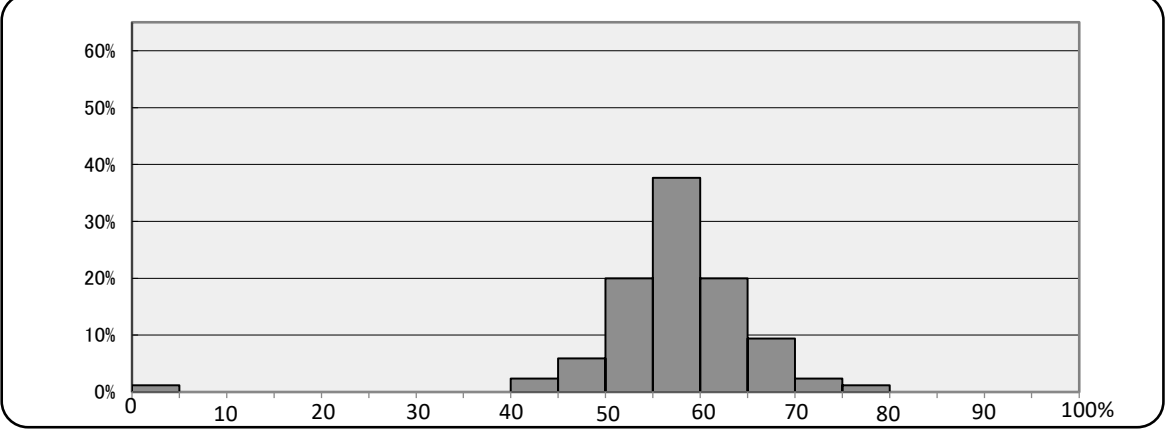
《公立中学校第3学年》

学校数	85 校
-----	------

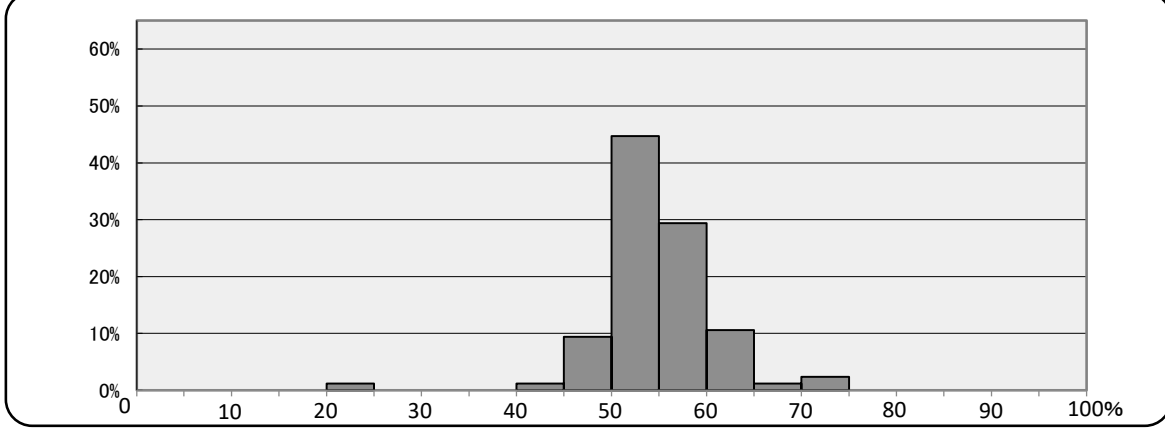
国語



数学



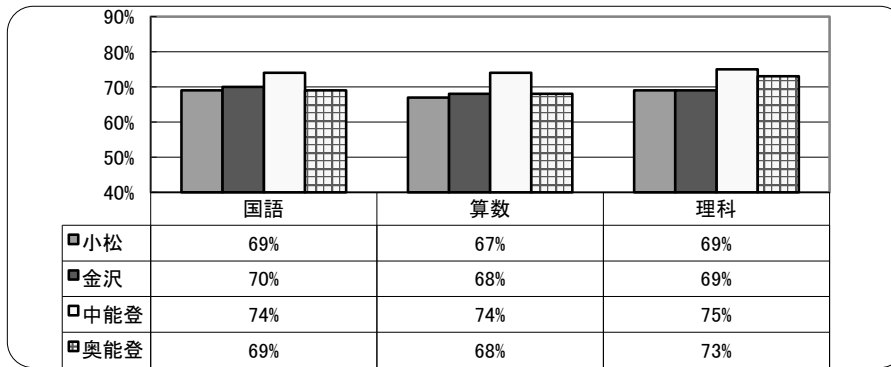
理科



(横軸: 学校の平均正答率 縦軸: 学校数の割合)

(3) 各教育事務所の状況

〔小学校〕



※平成29年度から文部科学省は、県の平均正答率を整数値で公表している。

本資料は、各教育事務所管内の状況について、国、県、及び市町教育委員会、それぞれの平均正答率を整数値として示したものであり、そのため精緻な数値での状況と異なる場合もある。

【小松教育事務所管内】

加賀市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 算数は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
小松市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
能美市	国語は、国の平均正答率と同程度だが、県の平均正答率をやや下回る。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 理科は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率を下回る。
川北町	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。

【金沢教育事務所管内】

白山市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 算数は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
野々市市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率をやや下回る。
金沢市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
津幡町	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
内灘町	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。
かほく市	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。

【中能登教育事務所管内】

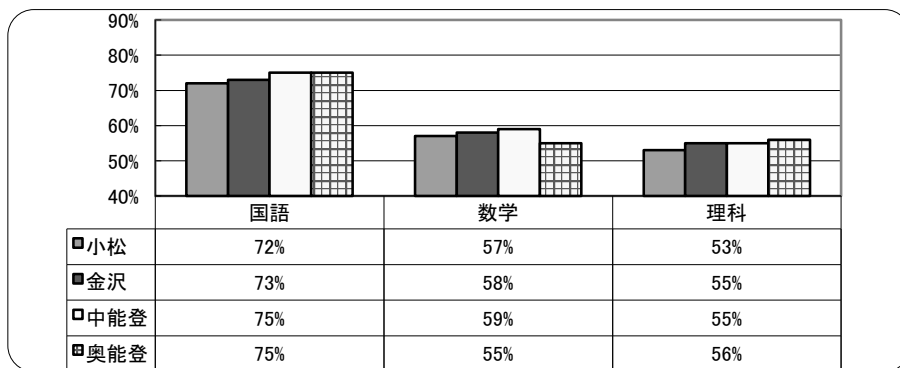
宝達志水町	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。
志賀町	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
羽咋市	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。
中能登町	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。
七尾市	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。

【奥能登教育事務所管内】

能登町	国語は、国の平均正答率と同程度だが、県の平均正答率を下回る。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。
穴水町	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。 算数は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
輪島市	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。
珠洲市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 算数は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。

※表記の仕方：国や県の平均正答率との差が、±5%以上(以下)は上回る(下回る)、
±2%以上(以下)～±5%未満はやや上回る(やや下回る)、±2%未満は同程度。

〔中学校〕



※平成29年度から文部科学省は、県の平均正答率を整数値で公表している。

本資料は、各教育事務所管内の状況について、国、県、及び市町教育委員会、それぞれの平均正答率を整数値として示したものであり、そのため精緻な数値での状況と異なる場合もある。

【小松教育事務所管内】

加賀市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 数学は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。
小松市	国語は、国の平均正答率と同程度だが、県の平均正答率をやや下回る。 数学は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 理科は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。
能美市	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 数学は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
川北町	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。 数学は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。

【金沢教育事務所管内】

白山市	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 数学は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
野々市市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 数学は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。
金沢市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 数学は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
津幡町	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 数学は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 理科は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。
内灘町	国語は、国の平均正答率と同程度だが、県の平均正答率を下回る。 数学は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率を下回る。 理科は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。
かほく市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 数学は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。

【中能登教育事務所管内】

宝達志水町	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。 数学は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
志賀町	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 数学は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
羽咋市	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 数学は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。
中能登町	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。 数学は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。 理科は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。
七尾市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 数学は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 理科は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。

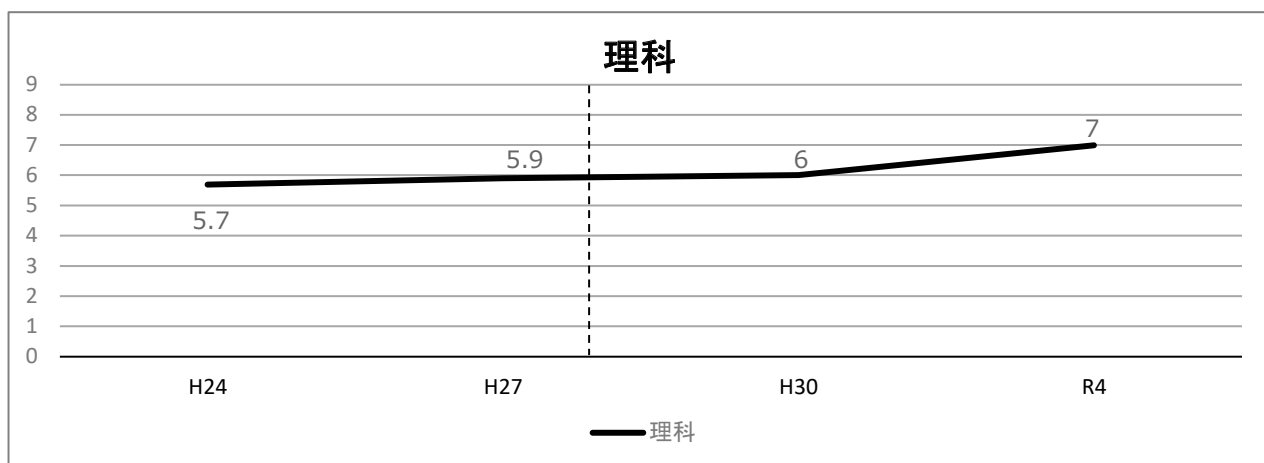
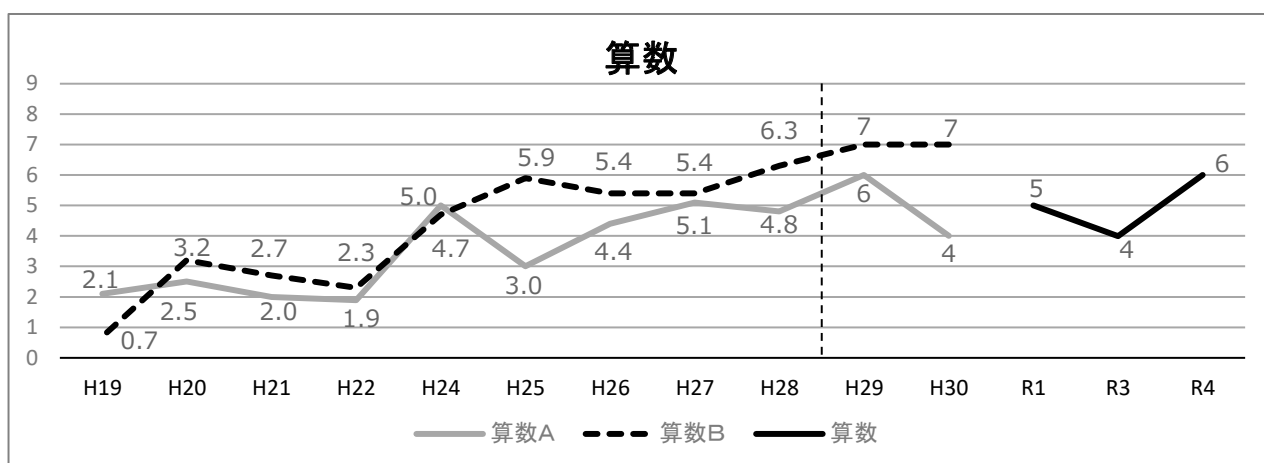
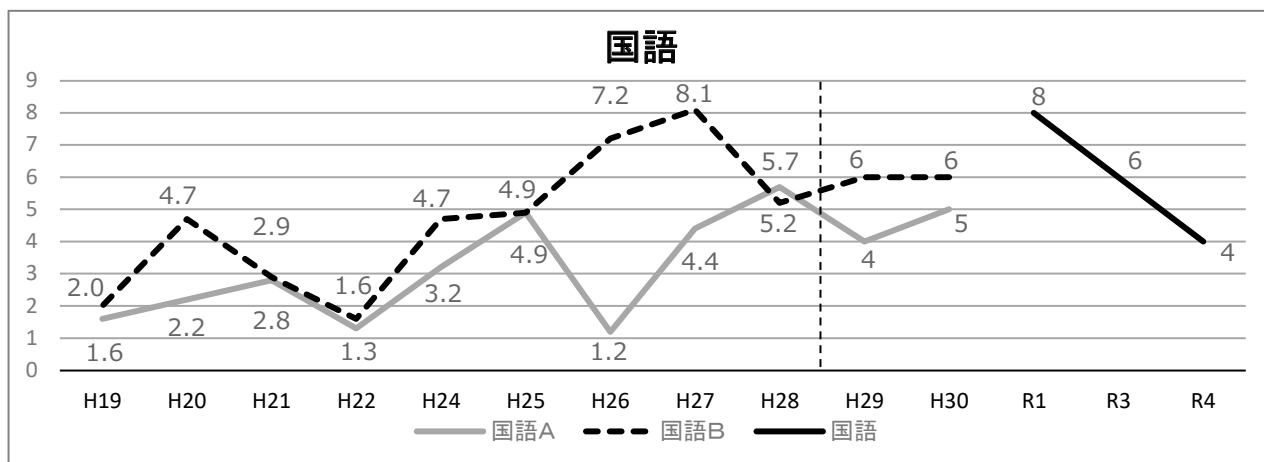
【奥能登教育事務所管内】

能登町	国語は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率と同程度。 数学は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。
穴水町	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 数学は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。
輪島市	国語は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率と同程度。 数学は、国の平均正答率をやや下回り、県の平均正答率を下回る。 理科は、国の平均正答率をやや上回るが、県の平均正答率をやや下回る。
珠洲市	国語は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率も上回る。 数学は、国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率をやや下回る。 理科は、国の平均正答率を上回り、県の平均正答率をやや上回る。

※表記の仕方：国や県の平均正答率との差が、 $\pm 5\%$ 以上(以下)は上回る(下回る)、 $\pm 2\%$ 以上(以下)～ $\pm 5\%$ 未満はやや上回る(やや下回る)、 $\pm 2\%$ 未満は同程度。

(4) 平均正答率の全国との差の変動(国語、算数・数学、理科)

小学校



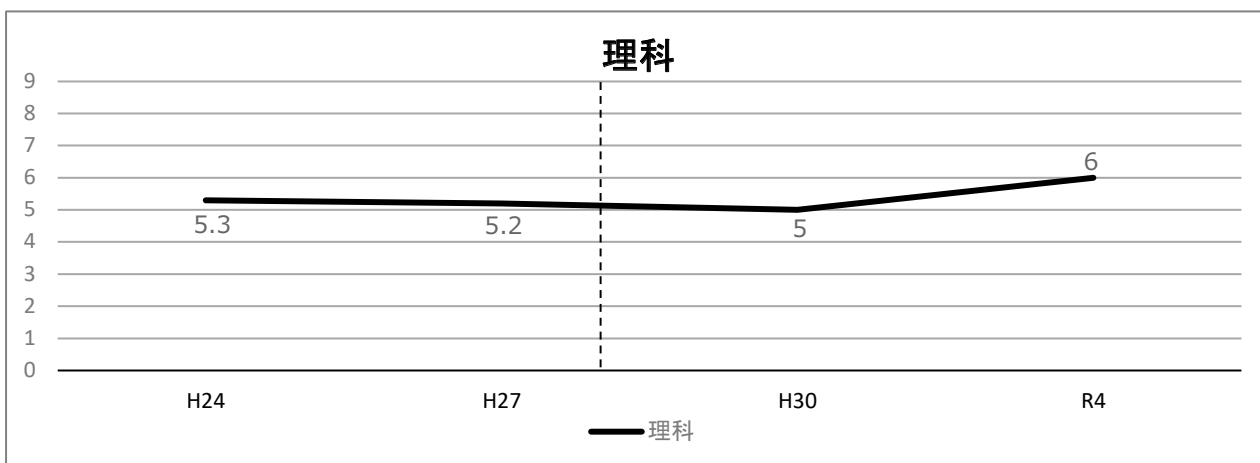
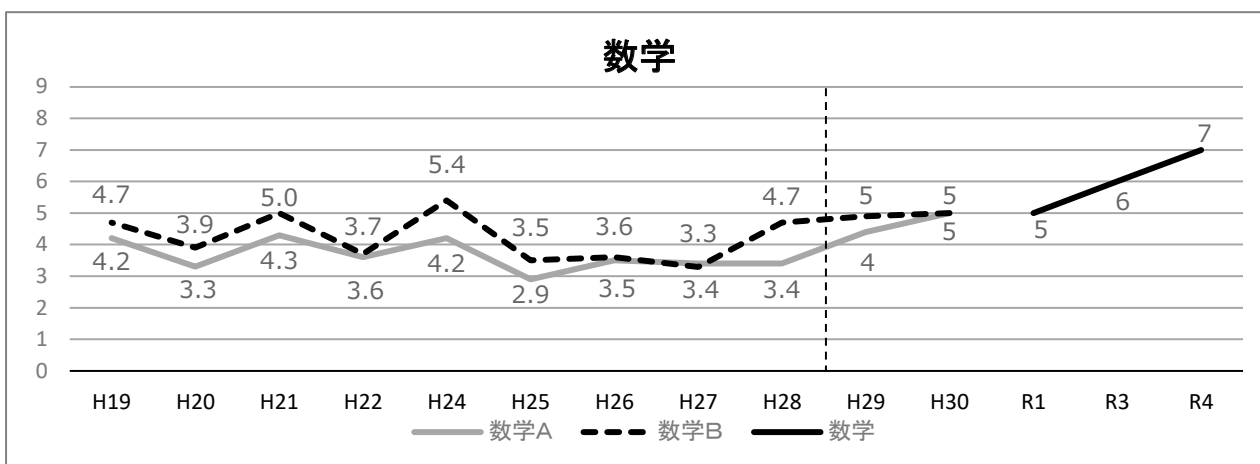
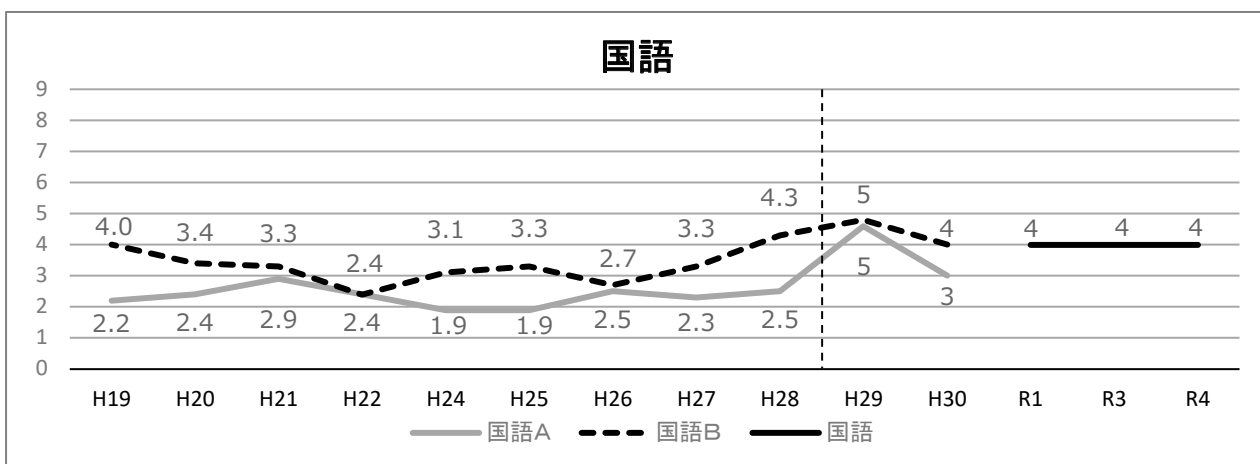
(横軸:年度 縦軸:ポイント)

※ 平成29年度より、文部科学省は、県の平均正答率を整数値で公表している。そのため、国と県のそれぞれの平均正答率を整数値として算出し、その差を示したものである。

※ 令和元年度より、従来のA問題(知識)とB問題(活用)という区分を見直した知識・活用を一体的に問う調査問題となる。

※ 悉皆調査(H19～H21、H26～)、抽出調査(H22、H24)、文部科学省による調査は中止(H23、R2)

中学校



(横軸:年度 縦軸:ポイント)

- ※ 平成29年度より、文部科学省は、県の平均正答率を整数値で公表している。そのため、国、県、それぞれの平均正答率を整数値として算出し、その差を示したものである。
- ※ 令和元年度より、従来のA問題(知識)とB問題(活用)という区分を見直した知識・活用を一体的に問う調査問題となる。
- ※ 悉皆調査(H19~H21、H26~)、抽出調査(H22、H24)、文部科学省による調査は中止(H23、R2)

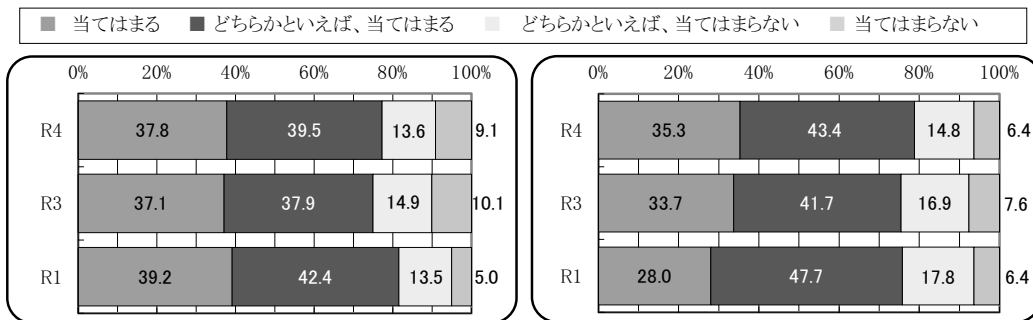
2 質問紙調査の結果

(1) 児童生徒質問紙調査

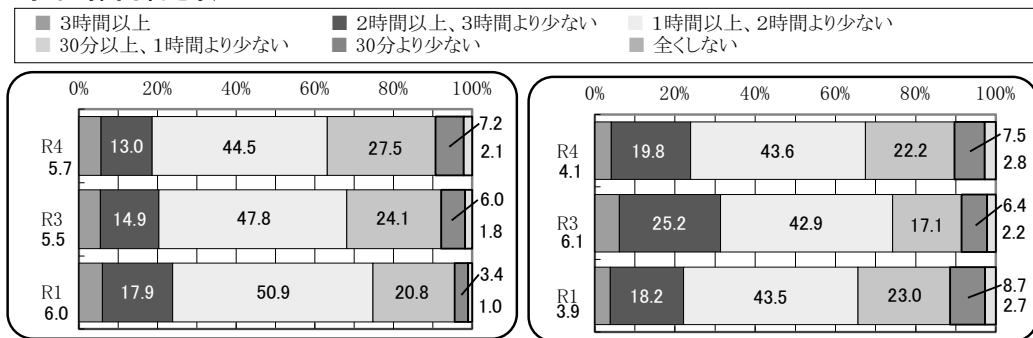
【小学校】

【中学校】

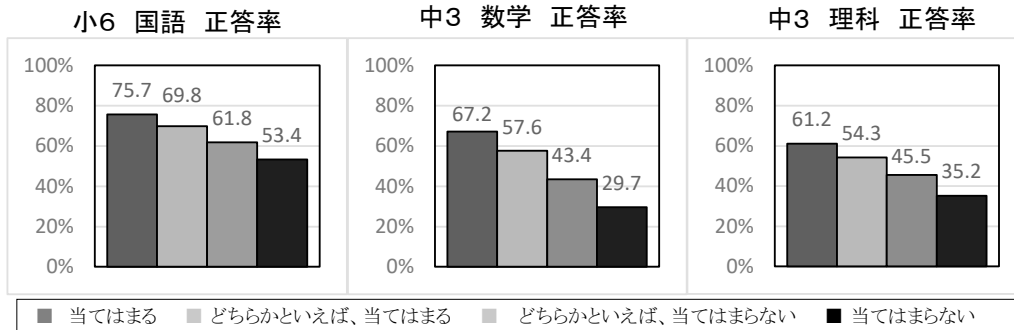
◇ 自分には、よいところがあると思いますか。



◇ 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)

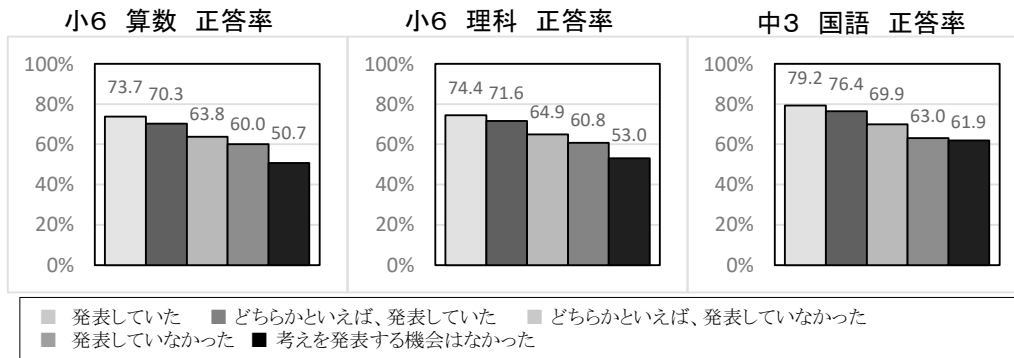


◇ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



※児童生徒質問紙調査において、各教科区分とのクロス集計したグラフから、小は国語、中は数学と理科のグラフを抜粋

◇ 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



※児童生徒質問紙調査において、各教科区分とのクロス集計したグラフから、小は算数と理科、中は国語のグラフを抜粋

<表記について>

△:全国より2ポイント以上高い ↑:前年度(前回)より2ポイント以上高い

▼:全国より2ポイント以上低い ※:未実施

① 基本的な生活習慣等

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
朝食を毎日食べている	R4	95.7	94.4		94.8	91.9	△
	R3	96.2	94.9		96.0	92.8	△
	R1	96.3	95.3		95.5	93.1	△
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	R4	83.2	81.5		84.5	79.9	△
	R3	83.7	81.2	△	↑ 84.2	79.8	△
	R1	84.6	81.4	△	80.4	78.0	△
毎日、同じくらいの時刻に起きている	R4	91.1	90.4		94.7	92.2	△
	R3	91.4	90.4		94.5	92.7	
	R1	92.7	91.6		94.3	92.8	
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている	R4	72.3	71.5		↑ 69.3	69.5	
	R3	71.4	70.1		65.6	67.9	▼
	R1	※	※		※	※	
普段(月曜日から金曜日)、1日当たり3時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをする	R4	18.4	19.7		21.9	29.5	▼
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	

② 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
自分には、よいところがあると思う	R4	↑ 77.3	↑ 79.3	▼	↑ 78.7	↑ 78.5	
	R3	75.0	76.9		75.4	↑ 76.2	
	R1	81.6	81.2		75.7	74.1	
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	R4	87.1	87.1		85.9	86.6	
	R3	※	※		※	※	
	R1	87.6	86.1		80.2	81.5	
将来の夢や目標を持っている	R4	77.2	79.8	▼	67.1	67.3	
	R3	78.4	80.3		68.3	68.6	
	R1	82.7	83.8		70.2	70.5	
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている	R4	↑ 88.4	↑ 87.2		↑ 88.6	↑ 86.6	△
	R3	85.4	84.3		86.4	84.2	△
	R1	※	※		※	※	
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している	R4	74.6	72.5	△	70.9	67.1	△
	R3	73.3	70.9	△	70.2	65.9	△
	R1	81.3	79.0	△	72.7	70.3	△

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	R4	97.2	96.8		97.4	96.4	
	R3	97.1	96.8		96.6	95.9	
	R1	97.5	97.1		95.6	95.1	
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	R4	67.5	68.1		67.6	66.6	
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
人の役に立つ人間になりたいと思う	R4	95.6	95.1		96.1	95.0	
	R3	96.0	95.5		95.9	95.0	
	R1	95.7	95.2		94.8	94.3	
学校に行くのは楽しいと思う	R4	83.3	↑ 85.4	▼	82.9	82.9	
	R3	83.4	83.4		82.7	81.1	
	R1	84.6	85.8		82.6	81.9	
自分と違う意見について考えるのは楽しい	R4	72.8	↑ 73.5		78.9	↑ 76.9	△
	R3	71.7	70.1		78.5	74.7	△
	R1	※	※		※	※	

③ 学習習慣、学習環境等

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
家で自分で計画を立てて勉強をしている(学校の授業の予習や復習を含む)	R4	75.4	71.1	△	63.7	58.5	△
	R3	78.5	74.0	△	66.2	63.5	△
	R1	※	※		※	※	
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上、勉強をしている	R4	63.2	59.4	△	67.5	69.5	▼
	R3	68.2	62.5	△	↑ 74.2	↑ 75.9	
	R1	74.8	66.1	△	65.6	69.8	▼
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり30分以上読書をしている	R4	15.2	17.3	▼	26.3	27.3	
	R3	17.0	18.2		27.3	28.9	
	R1	40.2	39.8		25.5	27.0	
新聞を週に1回以上読んでいる	R4	16.0	13.8	△	12.1	9.4	△
	R3	17.2	14.8	△	13.1	10.4	△
	R1	23.2	19.0	△	15.7	12.7	△
読書は好きですか	R4	75.5	73.1	△	71.5	68.2	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	79.1	75.0	△	69.4	68.0	

④ 地域や社会に関わる活動の状況等

項 目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある	R4	66.4	65.1		55.7	55.0	
	H30	87.6	87.0		↑ 77.9	↑ 77.6	
	H27	86.5	86.9		75.4	75.5	
地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある	R4	29.7	30.6		20.3	21.1	
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
今住んでいる地域の行事に参加している	R4	69.3	52.7	△	50.9	40.0	△
	R3	73.3	58.1	△	54.8	43.7	△
	R1	81.8	68.0	△	58.2	50.6	△
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	R4	51.7	51.3		46.1	40.7	△
	R3	54.8	52.4	△	↑ 48.7	↑ 43.8	△
	R1	56.7	54.5	△	41.9	39.4	△

⑤ ICTを活用した学習状況

項 目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用している	R4	85.7	83.2	△	88.1	80.6	△
	R3	95.7	94.5		92.5	91.2	
	R1	※	※		※	※	
学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用している	R4	76.5	76.1		79.8	71.7	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
学校で、学級の友達・生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使っている	R4	53.1	49.4	△	57.7	43.5	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使っている	R4	46.9	45.2		47.6	35.3	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う	R4	94.8	94.4		93.7	92.6	
	R3	95.7	94.5		94.5	93.2	
	R1	※	※		※	※	
普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っている	R4	8.1	9.2		4.7	6.3	
	R3	6.8	8.3		5.7	7.0	
	R1	※	※		※	※	

⑥ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

項 目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県 (%)	全国 (%)	比較	本県 (%)	全国 (%)	比較
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	R4	67.1	65.4		61.1	63.3	▼
	R3	65.7	63.5	△	↑ 61.1	↑ 62.0	
	R1	67.0	62.5	△	56.1	55.8	
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	R4	79.8	77.3	△	82.3	79.2	△
	R3	81.7	78.2	△	↑ 83.2	↑ 81.0	△
	R1	81.2	77.7	△	76.9	74.8	△
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	R4	74.7	72.2	△	76.5	67.4	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた	R4	69.7	68.4		75.6	67.2	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	R4	80.9	80.1		82.8	78.7	△
	R3	↑ 80.7	↑ 78.8		↑ 81.3	↑ 77.8	△
	R1	78.0	74.1	△	77.3	72.8	△
分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	R4	79.9	78.2		76.7	74.7	△
	R3	79.2	78.3		76.4	74.6	
	R1	※	※		※	※	

⑦ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳

項 目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県 (%)	全国 (%)	比較	本県 (%)	全国 (%)	比較
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	R4	77.4	72.7	△	84.0	72.1	△
	R3	↑ 80.1	↑ 73.0	△	↑ 83.6	↑ 70.2	△
	R1	72.7	65.7	△	71.9	61.5	△
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会[学級活動]で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	R4	78.3	73.5	△	↑ 82.4	↑ 76.8	△
	R3	79.8	73.4	△	↑ 78.7	↑ 73.9	△
	R1	80.5	74.0	△	75.1	71.6	△
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	R4	78.6	73.8	△	↑ 78.2	71.7	△
	R3	78.9	73.5	△	↑ 74.0	↑ 69.8	△
	R1	79.1	73.4	△	69.6	65.6	△
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	R4	81.4	80.0		88.7	85.5	△
	R3	83.8	81.1	△	↑ 88.8	↑ 86.2	△
	R1	83.1	80.9	△	79.7	76.6	△

⑧ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)

項 目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
国語の勉強は好きだ	R4	59.8	59.2		↑ 66.8	61.9	△
	R3	62.8	58.4	△	63.1	60.8	△
	R1	66.5	64.2	△	61.7	61.7	
国語の勉強は大切だ	R4	94.3	93.3		93.9	93.2	
	R3	94.5	93.2		92.2	91.6	
	R1	93.7	93.0		91.1	91.0	
国語の授業の内容はよく分かる	R4	86.5	84.0	△	85.5	81.2	△
	R3	88.0	84.2	△	↑ 83.7	↑ 80.1	△
	R1	88.3	84.9	△	80.5	77.6	△
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	R4	92.9	91.8		91.2	89.7	
	R3	92.8	91.8		89.8	88.7	
	R1	91.9	91.2		88.6	88.0	
解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した	R4	97.9	95.4	△	96.1	94.7	
	R3	97.8	97.5		97.5	96.8	
	R1	98.2	97.8		97.2	97.0	

⑨ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(算数・数学)

項 目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
算数・数学の勉強は好きだ	R4	68.5	62.5	△	63.4	58.1	△
	R3	74.5	67.8	△	↑ 64.8	59.1	△
	R1	73.0	68.6	△	59.9	57.9	△
算数・数学の勉強は大切だ	R4	95.7	94.2		89.6	↑ 86.6	△
	R3	95.7	93.8		88.0	84.1	△
	R1	95.0	93.7		86.2	84.2	△
算数・数学の授業の内容はよく分かる	R4	86.6	81.2	△	↑ 81.1	76.2	△
	R3	↑ 89.7	84.6	△	↑ 78.7	74.6	△
	R1	87.4	83.5	△	76.6	73.9	△
算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	R4	94.8	93.3		80.3	76.5	△
	R3	94.3	92.6		79.4	74.6	△
	R1	94.0	92.5		78.6	76.2	△
算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える	R4	71.7	69.3	△	53.3	47.3	△
	R3	77.2	73.9	△	↑ 56.6	↑ 50.6	△
	R1	79.2	76.5	△	※	※	
算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える	R4	82.2	80.4		79.0	75.2	△
	R3	84.8	82.7	△	↑ 79.6	↑ 75.8	△
	R1	84.5	82.0	△	※	※	
算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える	R4	79.2	76.8	△	72.2	70.2	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	83.8	82.1		※	※	

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている	R4	86.5	85.7		79.3	79.6	
	R3	90.3	89.0		84.8	83.5	
	R1	※	※		※	※	
[解答を]言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く[説明する]問題について、最後まで解答を書こうと努力した	R4	98.6	96.8		96.7	94.7	△
	R3	↑ 98.2	↑ 97.8		↑ 95.3	↑ 94.4	
	R1	86.5	80.7	△	67.5	60.8	△

⑩ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(理科)

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
理科の勉強は好きだ	R4	80.8	79.7		↑ 73.9	↑ 66.4	△
	H30	83.1	83.5		67.6	62.9	△
	H27	82.3	83.5		65.7	61.9	△
理科の勉強は大切だ	R4	↑ 89.2	86.5	△	↑ 83.1	↑ 76.8	△
	H30	85.2	85.4		↑ 75.8	70.6	△
	H27	87.9	86.9		73.6	69.3	△
理科の授業の内容はよく分かる	R4	90.0	88.5		↑ 83.2	↑ 75.2	△
	H30	89.5	89.4		74.0	↑ 70.0	△
	H27	88.4	87.9		72.2	66.8	△
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	R4	↑ 70.4	↑ 67.9	△	↑ 59.2	↑ 52.7	△
	H30	65.9	64.7		49.3	45.4	△
	H27	69.5	69.3		47.9	46.9	
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	R4	↑ 80.8	↑ 77.2	△	↑ 69.1	↑ 61.5	△
	H30	74.5	72.9		↑ 61.9	55.7	△
	H27	75.7	74.5		58.7	54.3	△
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい	R4	27.0	26.6		24.9	22.1	△
	H30	27.3	26.1		23.8	22.2	
	H27	27.0	28.8		24.0	22.9	
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている	R4	↑ 80.4	↑ 78.0	△	↑ 70.4	↑ 64.5	△
	H30	77.4	75.2	△	↑ 65.0	↑ 58.5	△
	H27	76.1	75.3		58.4	55.0	△
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている[結果をもとに考察している]	R4	↑ 86.9	↑ 84.9	△	↑ 84.5	↑ 78.9	△
	H30	↑ 84.0	81.8	△	↑ 78.1	↑ 72.3	△
	H27	81.2	80.4		69.6	67.2	△
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている	R4	↑ 74.6	↑ 72.2	△	↑ 73.6	↑ 68.1	△
	H30	↑ 70.7	68.1	△	↑ 63.2	↑ 59.0	△
	H27	67.6	67.1		56.9	55.0	
解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した	R4	↑ 98.1	↑ 96.5		↑ 98.7	↑ 97.3	
	H30	80.5	77.3	△	↑ 70.5	↑ 62.8	△
	H27	83.2	76.1	△	59.2	51.8	△

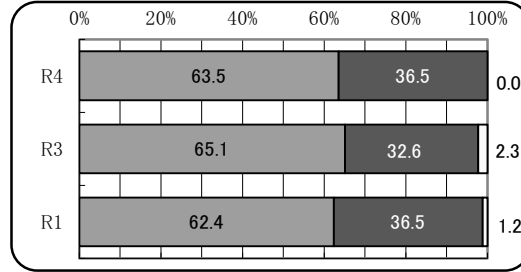
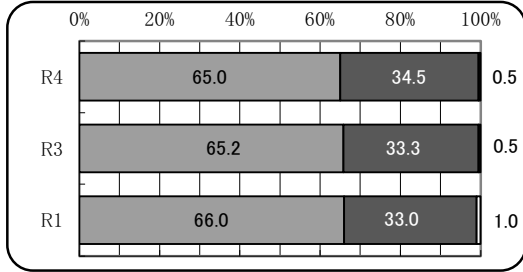
(2) 学校質問紙調査

【小学校】

【中学校】

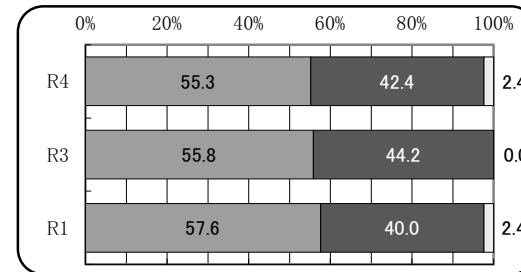
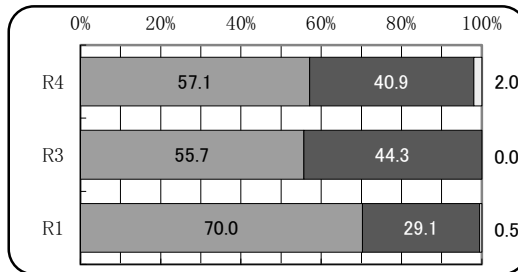
◇ 前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか。

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った ■ あまり行わなかった ■ 全く行わなかった



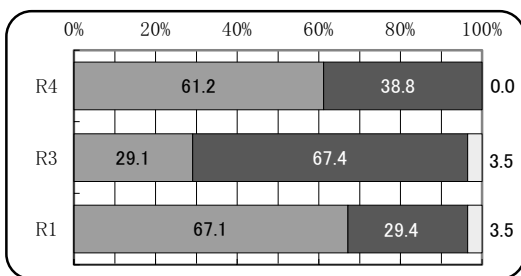
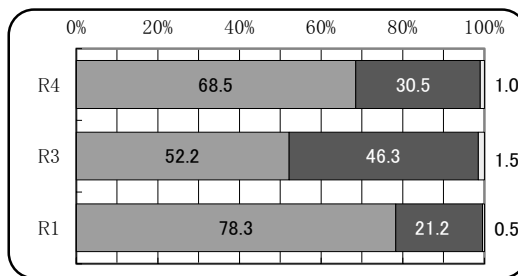
◇ 前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。【教科共通】

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った ■ あまり行わなかった ■ 全く行わなかった

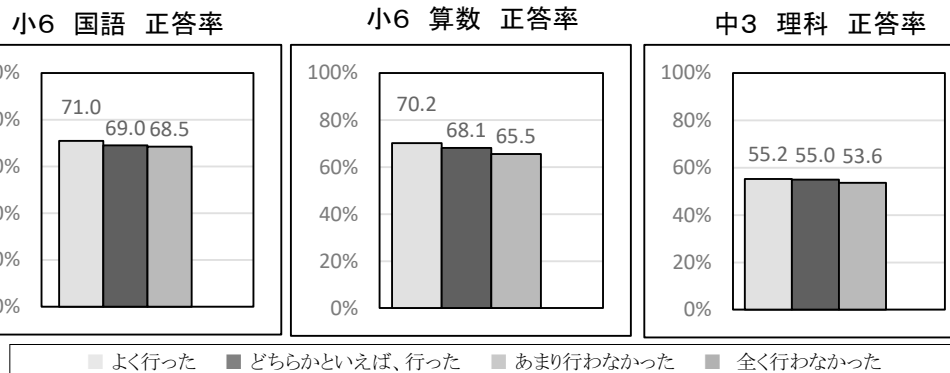


◇ 自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

■ よく行った ■ 行った ■ ほとんど行わなかった



◇ 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をどの程度行いましたか。



※学校質問紙調査において、各教科区分とのクロス集計したグラフから、小は国語と算数、中は理科のグラフを抜粋

<表記について>

△:全国より2ポイント以上高い

↑:前年度(前回)より2ポイント以上高い

▼:全国より2ポイント以上低い

※:未実施

① 生徒指導等

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う	R4	87.7	87.2		94.1	95.6	
	R3	↑ 89.6	88.5		95.3	96.0	
	R1	86.7	87.7		94.1	94.1	
前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	R4	↑ 87.7	84.6	△	↑ 100.0	98.5	
	R3	85.1	↑ 85.3		97.7	97.9	
	R1	83.8	83.2		96.5	98.6	▼
学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた	R4	↑ 97.1	96.2		91.7	94.3	▼
	R3	94.5	94.6		↑ 95.4	92.7	△
	R1	98.5	96.6		91.8	95.2	
学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った	R4	99.5	98.7		↑ 100.0	98.1	
	R3	98.5	98.7		97.7	98.6	
	R1	99.0	98.8		98.9	98.6	
スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したい時に相談できる体制となっている	R4	88.7	88.4		92.9	94.9	▼
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	

② 学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行った	R4	↑ 82.3	73.2	△	↑ 69.4	55.7	△
	R3	78.6	73.9	△	59.3	55.5	△
	R1	※	※		※	※	
教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行った	R4	↑ 90.2	83.7	△	↑ 72.9	69.1	△
	R3	85.1	84.5		70.9	68.3	△
	R1	※	※		※	※	
指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している	R4	97.1	94.8	△	↑ 94.1	91.3	△
	R3	95.6	94.4		↑ 91.8	90.6	
	R1	95.1	95.1		87.1	91.3	▼
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	R4	96.0	94.2		95.3	93.3	△
	R3	94.5	93.6		95.4	92.7	△
	R1	97.0	95.4		98.8	93.4	△
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている	R4	93.6	92.3		↑ 89.4	82.3	△
	R3	98.0	94.2	△	81.4	84.6	▼
	R1	97.1	96.4		91.8	86.9	

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている	R4	99.5	97.7		↑ 97.7	92.7	△
	R3	99.0	98.1		93.0	93.9	
	R1	100.0	99.3		98.8	96.4	
児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	R4	↑ 85.2	83.6		78.8	78.6	
	R3	80.1	82.4	▼	80.2	77.7	△
	R1	※	※		※	※	

③ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う	R4	87.1	87.2		84.7	87.9	▼
	R3	89.1	85.3	△	↑ 83.7	↑ 86.0	▼
	R1	91.6	85.5	△	81.2	82.6	
自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う	R4	↑ 74.4	↑ 75.1		↑ 74.1	↑ 80.7	▼
	R3	71.7	68.3	△	72.1	75.6	▼
	R1	※	※		※	※	
学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思う	R4	81.8	83.8	▼	↑ 89.4	87.3	△
	R3	85.1	82.4	△	87.2	86.6	
	R1	※	※		※	※	
学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	R4	↑ 77.4	↑ 80.9	▼	75.3	↑ 86.2	▼
	R3	74.1	75.8		77.9	83.6	▼
	R1	※	※		※	※	
学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思う	R4	91.7	90.7		94.2	96.0	
	R3	90.5	89.9		94.2	95.2	
	R1	※	※		※	※	
児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした	R4	97.5	96.8		94.2	97.1	▼
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	R4	92.6	↑ 89.8	△	88.3	↑ 87.0	
	R3	94.0	87.7	△	94.2	84.5	△
	R1	※	※		※	※	
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした	R4	↑ 91.6	88.0	△	87.1	88.2	
	R3	89.6	88.1		86.1	86.9	
	R1	93.6	89.3	△	94.1	88.0	△
各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	R4	↑ 89.1	↑ 83.4	△	↑ 83.5	↑ 76.6	△
	R3	83.6	81.4	△	69.8	72.6	▼
	R1	88.6	84.7	△	78.8	77.9	
教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った	R4	85.2	82.6	△	80.0	80.4	
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	

④ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている	R4	94.6	90.8	△	↑ 92.9	89.6	△
	R3	↑ 95.5	90.7	△	90.7	88.1	△
	R1	88.7	89.3		91.8	89.1	△
学級生活をよりよくするために、学級会[学級活動]で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っている	R4	94.6	93.8		↑ 91.8	93.3	
	R3	97.0	94.5	△	86.0	93.9	▼
	R1	96.0	94.5		88.2	93.2	▼
学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている	R4	94.1	92.6		91.8	91.7	
	R3	↑ 97.0	93.3	△	↑ 90.7	92.1	
	R1	94.1	93.1		85.9	91.4	▼
特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている	R4	99.5	96.9	△	94.1	97.7	▼
	R3	98.5	97.0		96.6	↑ 97.9	
	R1	99.0	96.7	△	95.3	92.6	△

⑤ 学習評価

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
児童生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにした	R4	98.1	97.0		↑ 98.8	96.6	△
	R3	99.0	96.6	△	95.4	95.7	
	R1	※	※		※	※	
創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をした	R4	85.2	84.1		↑ 91.8	↑ 91.6	
	R3	87.6	84.4	△	88.4	88.3	
	R1	※	※		※	※	

⑥ 国語科の指導方法

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行った	R4	↑ 95.6	↑ 94.4		↑ 97.7	↑ 97.5	
	R3	91.1	91.4		94.2	94.8	
	R1	※	※		※	※	
目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行った	R4	95.1	↑ 95.4		↑ 94.1	↑ 93.4	
	R3	94.5	92.8		91.9	88.3	△
	R1	※	※		※	※	
目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする[自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする]授業を行った	R4	↑ 96.6	↑ 92.7	△	96.5	96.1	
	R3	94.5	89.6	△	95.3	94.3	
	R1	※	※		※	※	
目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする[内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする]授業を行った	R4	96.1	95.6		↑ 95.3	↑ 95.8	
	R3	96.0	93.9	△	90.7	92.7	
	R1	※	※		※	※	

⑦ 算数・数学科の指導方法

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
実生活における事象との関連を図った授業を行った	R4	↑ 93.6	↑ 84.3	△	↑ 82.4	↑ 82.8	
	R3	↑ 86.6	82.2	△	76.8	78.1	
	R1	82.3	82.4		83.6	78.1	△
具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする[観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす]活動を行った	R4	94.5	92.4	△	↑ 81.2	↑ 78.7	△
	R3	95.0	91.9	△	79.0	76.2	△
	R1	※	※		※	※	
公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童生徒がそのわけ[根拠]を理解できるように工夫していた	R4	98.0	97.1		95.3	97.0	
	R3	99.0	97.1		94.2	96.5	▼
	R1	※	※		※	※	

⑧ 理科の指導方法

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行った	R4	94.6	93.9		92.9	94.4	
	H30	※	※		※	※	
	H27	※	※		※	※	
実生活における事象との関連を図った授業を行った	R4	↑ 96.0	↑ 94.2		↑ 95.3	↑ 96.8	
	H30	↑ 83.2	↑ 85.7	▼	↑ 93.3	↑ 90.7	△
	H27	80.9	80.0		90.1	88.1	△
自ら考えた[予想や]仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行った	R4	↑ 92.2	↑ 93.8		75.3	↑ 79.2	▼
	H30	↑ 83.2	↑ 85.7		↑ 82.0	↑ 73.0	△
	H27	80.9	80.0		68.1	65.8	△
観察や実験の結果を整理し考察する[分析し解釈する]指導を行った	R4	95.0	97.1	▼	↑ 98.9	94.6	△
	H30	97.6	↑ 96.0		96.6	↑ 94.3	△
	H27	96.8	93.8	△	95.6	91.3	△
児童生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たり週1回以上行った	R4	99.0	96.0	△	98.9	91.2	△
	H30	98.6	97.4		97.8	97.7	
	H27	96.8	96.5		98.9	96.3	△

⑨ ICTを活用した学習状況

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たり週1回以上行った	R4	↑ 98.0	↑ 95.8	△	↑ 97.7	↑ 95.9	
	R3	↑ 81.6	↑ 86.6	▼	↑ 94.2	↑ 87.8	△
	R1	77.8	80.8	▼	87.1	80.8	△
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある	R4	↑ 97.6	↑ 94.7	△	94.1	↑ 90.8	△
	R3	94.6	84.8	△	94.2	78.4	△
	R1	※	※		※	※	
コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識を持った専門スタッフ(教員は除く)がいるなど技術的にサポートできる体制がある	R4	↑ 77.3	↑ 69.3	△	↑ 78.8	↑ 69.3	△
	R3	72.1	53.8	△	76.8	52.1	△
	R1	※	※		※	※	

項目		小学校			中学校		
		本県 (%)	全国 (%)	比較	本県 (%)	全国 (%)	比較
一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週1回以上活用した	R4	99.0	97.7		98.8	95.6	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用させた	R4	93.1	92.2		92.9	87.6	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用させた	R4	78.9	71.6	△	88.2	73.8	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
教職員と児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用させた	R4	75.8	72.1	△	84.8	70.8	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用させた	R4	61.1	59.1	△	68.2	55.4	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童生徒が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組を月1回以上実施した	R4	2.5	3.8		3.6	3.6	
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器を活用している	R4	↑ 47.8	↑ 50.3	▼	↑ 51.8	↑ 49.4	△
	R3	34.3	39.6	▼	45.4	43.9	
	R1	※	※		※	※	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を持ち帰って利用させている	R4	85.7	66.9	△	61.1	61.8	
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習に週1回以上活用している	R4	4.5	12.4	▼	14.1	25.3	▼
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童生徒のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認に週1回以上活用している	R4	26.6	32.4	▼	21.2	22.2	
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童生徒の特性・学習進度等に応じた指導に週1回以上活用している	R4	49.8	48.6		38.8	35.3	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童生徒に対する学習活動等の支援に週1回以上活用している	R4	29.0	37.6	▼	31.8	41.9	▼
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援に週1回以上活用している	R4	58.2	51.6	△	48.2	46.5	
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	

⑩ 特別支援教育

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
児童生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)を行った	R4	↑ 93.1	94.3		↑ 91.8	92.8	
	R3	91.0	94.4	▼	84.8	93.3	▼
	R1	94.6	95.1		96.5	92.6	△

⑪ 小学校教育と中学校教育の連携

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
近隣等の小学校[中学校]と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った	R4	55.2	52.7	△	68.3	61.1	△
	R3	59.7	59.1		72.1	65.0	△
	R1	70.5	65.0	△	76.5	68.0	△
近隣等の小学校[中学校]と、授業研究を行うなど、合同で研修を行った	R4	48.7	48.2		57.6	58.0	
	R3	64.2	57.4	△	69.7	65.1	△
	R1	81.8	70.6	△	88.2	76.2	△
令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校[中学校]と成果や課題を共有した	R4	47.7	44.5	△	↑ 58.9	47.6	△
	R3	49.8	48.1		53.5	48.5	△
	R1	76.8	60.6	△	68.3	60.0	△

⑫ 家庭や地域との連携等

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている	R4	73.4	82.0	▼	72.9	79.7	▼
	R3	75.6	85.7	▼	76.8	87.2	▼
	R1	83.8	89.6	▼	88.3	86.4	
保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加している	R4	94.6	94.6		81.2	77.5	△
	R3	98.0	95.7	△	86.0	85.3	
	R1	97.0	97.8		94.1	90.4	△
地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、上記の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行った	R4	↑ 57.1	70.8	▼	↑ 48.2	55.8	▼
	R3	52.7	73.3	▼	44.1	63.3	▼
	R1	61.1	79.2	▼	54.2	67.5	▼
上記の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があった	R4	92.6	93.7		89.4	86.5	△
	R3	94.5	94.7		89.6	89.8	
	R1	95.1	95.6		90.5	91.5	

⑬ 家庭学習

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた	R4	98.0	96.5		97.7	93.6	△
	R3	100.0	95.5	△	↑ 100.0	91.9	△
	R1	99.1	95.5	△	97.6	92.3	△
保護者に対して、児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った	R4	96.0	92.4	△	94.1	86.7	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	※	※		※	※	
家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かした	R4	89.2	89.7		83.5	86.9	▼
	R3	90.0	89.4		83.7	85.4	
	R1	※	※		※	※	

⑭ 全国学力・学習状況調査の結果の活用

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	R4	99.0	↑ 95.9	△	↑ 100.0	↑ 92.7	△
	R3	98.5	92.1	△	96.5	87.7	△
	R1	99.5	97.3	△	96.5	95.7	
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行った	R4	99.5	↑ 91.7	△	↑ 100.0	↑ 88.5	△
	R3	99.0	88.7	△	95.3	85.8	△
	R1	99.5	95.3	△	96.4	93.7	△
令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	R4	94.6	86.2	△	94.2	80.6	△
	R3	※	※		※	※	
	R1	99.0	91.2	△	96.5	87.5	△

令和4年度

全国学力・学習状況調査 ー結果の概要ー

令和4年9月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

TEL 076-225-1827

e-mail : gakusi@pref.ishikawa.lg.jp